

権力を告発する！

2017/04/21

No.009

公安警察による全学連大会襲撃弾劾！
告訴・国賠ニュース

発行：全学連救対部
03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp

国賠・第1回裁判うちぬく！

全学連襲撃に国賠で反撃！

4月17日、警視庁公安部による「全学連大会襲撃事件」(昨年9月)の国家賠償請求訴訟・第1回口頭弁論が東京地裁で行われました。「新共謀罪」の先取りとも言うべき、警視庁公安部の襲撃への反撃を開始しました！

被告側(15名の公安刑事個人と東京都・小池百合子都知事)は、公安刑事の代理人弁護士と東京都の役人の7名が出廷。当該である警視庁公安部の公安刑事は姿を見せませんでした。

永谷裁判長の訴訟指揮に怒り爆発

安倍と警視庁公安部の手先として登場した裁判長・永谷典雄(=写真右上)のでたらめ極まる訴訟指揮に怒りが爆発しました。被告側が、書面提出を「2か月半後にしてくれ」という恥知らずな要望をしてくれました。これに対し、弁護団と原告から「昨年11月末に提訴し



たにもかかわらず、何も準備していないのか！」と怒りの声が上がりました。しかし、永谷裁判長は被告側の要望を聞き入れ、次回期日を2か月半以上後の7月10日に設定しました。新共謀罪＝「テロ等準備罪」の成立を待ち、第2回裁判を迎えたいという敵の思惑は明らかです。

永谷裁判長の強権的訴訟指揮こそ安倍政権の姿です。「安倍打倒！戦争阻止！」の闘いとして裁判闘争を闘います。



新共謀罪と朝鮮戦争を阻止しよう

【4月17日の裁判での作部羊平君(京都大学)の意見陳述抜粋】

米トランプ政権による4月6日のシリア空爆と、続く13日の大量破壊兵器MOABの使用を弾劾します。ティラーソン米 국무長官が「シリア空爆は北朝鮮への警告だ」と明言し、4月上旬の日米高官の会談では米側から日本側に北朝鮮への攻撃が打診され、今まさに30万人以上を動員して朝鮮半島をぐるりととりまく米韓合同軍事演習が行われています。

安倍首相は、今回のシリア空爆に対して「米国の決意を支持する」と賛美しました。2015年の安保関連法の強行成立に続き、憲法改悪、そして戦前の治安弾圧法の焼き直しである新共謀罪＝「テロ等準備罪」の導入に向かっています。本件被疑事件、全学連大会への公安警察の襲撃は、まさにこうした戦争政策と治安弾圧の文脈で行われた国家犯罪に他なりません。徹底的に弾劾します。

私は2010年4月に京都大学に入学しました。そして2015年10月、安保関連法の強行成立と大学の戦争協力に反対して、京都大学でバリケードストライキを闘いました。その後このストライキを理由に無期限の停学処分を受け、現在は、京都大学全学自治会同学会中央執行委員長として、そして全学連書記長として、処分撤回運動を中心として活動しています。

京大反戦ストライキは、日本の大学では実に15年ぶりとなる学生ストライキであり、妥協を重ねる多くの既成の運動に対して、「絶対反対」を貫く画期的な闘いだったと自負しています。こうした闘いの拡大を抑えるために、国家権力がどんな暴力を使っても全学連を潰すという明確な意思をもって襲いかかってきたのが本件被疑事件に他なりません。

全学連大会は、全国の闘う学友が集まり、今後の学生運動をどう作っていくかを真剣に話し合う場所です。特に2016年の大会は、反戦ストへの無期停学処分を撤回させ、改憲と戦争を止める全国大学ストライキを作り出そうというものでした。

今の時代に対して、学生が討論をすることの何が悪いのでしょうか？ マルティン・ニーメラー牧師が語ったように、かつてナチスはまず共産主義者を攻撃し、社会主義者、学校、新聞、障がい者、ユダヤ人、そして協会と、順番に、それぞれ分断して攻撃していきました。同じことが今私たちの目の前で起きています。

京大反戦ストライキに関して6名が逮捕された時の勾留理由開示公判では、京都地方裁判所が事前に大量の機動隊を所内に配置して傍聴者全員を追い出し、抵抗した学生を刑事告訴する暴挙に出ました。この時代において、裁判所が「法の番人」として権力を裁く立場に立っているのかどうか、あるいは朝鮮戦争を準備する安倍政権に手を貸してふたたび世界を血の海に沈める立場に立つのかが問われています。

私は、新共謀罪粉碎、朝鮮戦争絶対阻止の立場に立ち、全国・全世界の仲間とともにこれからも闘っていきます。



カンパのお願い

告訴・国賠闘争を闘うにあたって、弁護士費用含め多額の費用がかかります。あたたかいカンパをぜひお寄せ下さい！

【郵便振替】 00190-0-766112

【全日本学生自治会総連合】

全学連大会襲撃事件とは？

昨年9月1日～2日に都内で開催した全学連大会の会場前で、公安警察が参加者に対し暴力的な襲撃行為を行った事件。公安警察は、「参加者のメガネや帽子をはぎ取って奪い去る」、「胸倉をつかんで殴る」、「地面に引き倒す」、「首を締め上げる」などの白昼公然たる暴行におよび、暴行をやめさせようと体を張って止めた参加者たちにはそれ以上の苛烈な暴力をふるいました。